

**令和8年第4回 岩沼市議会定例会
一般質問通告一覧表**

質問 順番	議席 番号	議員氏名	質問事項及びその要旨	答弁者
1	4	高 梨 明 美	1. 市民の生命を守るためのAEDの活用と救命環境の充実について 突然の心停止から大切な命を救うためには、発症後、一刻も早く胸骨圧迫を開始するとともに、AEDによる電気ショックを行うことが極めて重要である。 本市においても、公共施設や学校等へのAED設置や救命講習の実施など、救命環境の整備に取り組んできた。 一方、いざという時に市民が迷わずAEDを見つけ、迅速かつ適切に使用できる環境を整えるためには、AEDの設置場所や利用方法のさらなる周知、学校や地域における実践的な救命訓練、イベント等へのAED貸出し、町内会等への設置支援など、さらなる取組が必要と考える。また、AEDは設置するだけでなく、誰もがためらわず使用できるよう、日頃からの訓練や、プライバシーに配慮した環境整備、適切な維持管理を行うことが重要である。 そこで、救命率の向上と「安全・安心なまち岩沼」の実現に向け、本市におけるAEDの設置、管理、活用の現状と課題及び今後の取組について伺う。 1. 市有施設等におけるAEDの設置、管理及び活用状況について (1) 本市が管理する公共施設及び学校等におけるAEDの設置状況を伺う。 (2) AEDは、設置場所だけでなく、緊急時に誰もが迅速に取り出して使用できることが重要である。 本市では、AEDの使用可能時間、施設の開館時間外における利用、夜間及び休日の対応について、どのような考え方で運用しているのか伺う。 (3) 過去5年間のAEDの使用状況を伺う。 2. 学校や公共施設における実践的な救命教育や訓練について (1) 公民館、市民会館、総合体育館等の公共施設において、職員等を対象としたAEDの使用方法や心肺蘇生法等の救命講習並びに救命訓練の実施状況について伺う。 (2) 小中学校における教職員を対象としたAEDの使用方法や心肺蘇生法等の救命講習並びに救命訓練の実施状況について伺う。 (3) 児童生徒についても、発達段階に応じて、命を守るための心肺蘇生法やAEDの役割を学ぶ機	市 長 教育長

(同)	(同)	高 梨 明 美	会を設けることが重要と考える。 本市の小中学校において、児童生徒を対象とした救命教育をどのように実施しているのか伺う。 3. AEDの配置の在り方とプライバシーに配慮した救命環境について (1) 学校の校舎から校庭まで距離がある場合や、児童生徒数の多い学校、スポーツイベント等が頻繁に開催される大型公共施設などでは、救命対応までの時間を短縮するため、複数台のAED設置や配置場所の工夫が必要と考える。 本市では、施設の規模や利用状況、AEDまでの距離等を踏まえ、配置場所や設置台数を定期的に検証しているのか伺う。 (2) AED使用時には、傷病者、特に女性の胸部を露出することへの抵抗感から、使用をためらうことがないよう、プライバシーに配慮した環境を整えることが重要であると考え。 本市の公共施設や学校等において、三角巾やプライバシー保護シート等をAED収納ボックス内に配備しているのか伺う。 また、未整備の施設については、配備すべきと考えるが、見解を伺う。 4. 市民がAEDを利用しやすい環境づくりと情報発信について (1) 市民が緊急時にAEDを探す際、設置場所を事前に知っていることが重要である。 あぶくま消防本部が公開しているAED設置場所の情報について、本市としても市ホームページや広報紙での周知、防災関連の情報発信媒体等を活用し、より分かりやすくアクセスできるようにするべきと思うが、考えを伺う。 (2) AEDの設置場所だけでなく、「AEDは誰でも使用できること」「救命のためには胸骨圧迫とAEDの使用をためらわないこと」など、AEDに関する正しい知識について、市民への啓発をさらに進めるべきと思うが、考えを伺う。 5. 市民が主催するイベント等へのAED貸出しについて 市内で開催される市民が主催するイベントやスポーツ大会等において、参加者の安全を確保するため、主催者に対してAEDを無償で貸し出す制度を設けるべきと思うが、考えを伺う。 6. 町内会等へのAED設置支援について AEDは、医療機関や公共施設だけでなく、地域の身近な場所に設置されていることが、救命率の向上につながると考える。	市 長 教育長
-----	-----	---------	---	------------

(同)	(同)	高 梨 明 美	町内会等が集会所などにAEDを新規に設置する場合、その購入費の一部を補助する制度を導入してはどうか伺う。	市 長 教育長
			2. ひとり親家庭への支援の充実について ひとり親家庭は、子育てと仕事を一人で担うことによる負担に加え、経済的な不安や養育費の未払いなど、さまざまな課題を抱えている。安心して子育てと生活を営むことができるよう、必要な支援につながる環境を整備することが重要である。 1. 本市では、ひとり親家庭の自立と就労を促進するための支援として、「自立支援教育訓練給付金」「高等職業訓練促進給付金」の給費事業を実施しているが、これまでの利用状況、就労実績及び就労につながる上での課題について伺う。 2. 本年4月1日に民法等の一部を改正する法律が施行され、離婚後の子の養育ルールが大きく変更された。離婚を考えている当事者が混乱なく正確な情報を得られるよう、市のホームページ等において分かりやすい情報発信及び周知徹底を図るべきと思うが、考えを伺う。 3. 仙台市などでは、ひとり親家庭が利用できる各種制度や相談窓口、支援情報などをまとめた「ひとり親サポートブック」を作成し、情報提供を行っている。本市においても、必要な支援を分かりやすく一冊にまとめ、ひとり親家庭が必要な支援につながりやすくするため、サポートブックを作成し活用してはどうか伺う。 4. 離婚等によりひとり親となった家庭から、養育費に関する相談がどの程度寄せられているのか、相談内容と本市の対応状況について伺う。 5. 養育費の未払いを防止し、確実な履行につなげるためには、離婚時に公正証書等を作成し、養育費の取り決めに明確にしておくことが有効である。近年、作成費用の補助制度を導入する自治体も増えていることから、本市においても公正証書等の作成費用を補助する制度を導入すべきと思うが、考えを伺う。	市 長
2	11	佐 藤 一 郎	1. 令和9年度予算編成について 1. 令和9年度予算編成に向けて、市長の公約にかかる施策をどのように予算へ反映するのか、市長の考えを伺う。 2. 市長の公約に「人口5万人構想」があるが、新年度はどのような施策を考えているのか伺う。 (1) 「新たな居住地の整備」について、前回の定例	市 長

(同)	(同)	佐藤 一郎	会での答弁では、東部地区等の住宅地整備の可能性調査時に選定した地区について言及があった。新年度はどのような取組を行うのか伺う。 (2) 前回の定例会において、空き家対策について「改修費用の補助の制度を検討してまいりたい」との答弁があったが、具体的に補助内容、補助金はどのようになるのか伺う。 3. 公約に「良い政策はさらに伸ばす！、出産二人目以降の保育料の無償化や子育て支援センターの活用、子ども医療費助成など、今うまくいっている施策は継続しながらも、さらに使いやすく、より良い制度へ改善します。」とあるが、新年度はどのような施策を行うのか、検討状況を伺う。 4. 公約に「高齢者も安心して暮らせる岩沼へ！バスやタクシー、ＡＩバスなどの移動手段の充実や気軽に楽しく集まれる場所づくりなど、高齢者も安心して暮らせるまちをつくりまします。」とあるが、新年度はどのように取り組むのか伺う。 5. 新年度の新規事業について、どのような施策を行うのか現在の検討状況を伺う。	市長
			2. 補聴器購入の補助制度について 高齢化に伴い補聴器の購入者が増加傾向にある。補聴器を使用することが認知症の予防に有効であることから、仙台市では補聴器の購入に対して９月から補助制度を実施する。補聴器は高額であり、本市でも補助を検討すべきであると思うが、市長の見解を伺う。	市長
			3. がん検診内視鏡検査について がん検診の際の内視鏡検査について伺う。 1. 令和７年度の検査状況を伺う。 2. 令和８年度の検査状況を伺う。 3. どのような課題があるのか伺う。 4. 市内８か所あまりの医療機関で検査が可能であるが、１人でも多くの検診者が内視鏡検査を受けるよう今後も利用を促進すべきと思うが、考えを伺う。	市長
			4. マイナンバーカードの更新手続について マイナンバーカードの更新のピークが到来すると予測されている令和９年度の対応について 1. 令和９年度中に更新期限が到来する件数を伺う。 2. ピーク時はどのような体制で対応するのか伺う。 3. 玉浦コミュニティセンターや岩沼西コミュニティセンターなど、地域内にある外部施設で更新手続が	市長

(同)	(同)	佐 藤 一 郎	行えるよう体制を整えてはどうか、見解を伺う。 4. マイナンバーカードの更新による窓口の混雑を緩和するため、郵便局での手続も可能としている自治体もあるが、市長の見解を伺う。	市 長
			5. 豪雨対策について 最近の気象では線状降水帯の発生により、千葉県、石川県、富山県、福井県で豪雨災害が連続して発生し、甚大な浸水被害が起きている。市内の豪雨対策について伺う。 1. 市内の豪雨対策をどのように行っているのか伺う。 2. 二野倉排水区大規模雨水処理施設整備事業の進捗状況について伺う。 3. 栄町地区の浸水対策の進捗状況について伺う。 4. 仙台空港の運用時間24時間化に伴う県との覚書にある臨空都市としての機能を維持できるよう雨水排水対策として、さらなる強化を図るため、南長谷排水機場の整備があるが、進捗状況について伺う。	市 長
3	3	大 村 晃 一	1. 障害者支援体制について 1. 障害者に対する医療環境の支援について (1) 医療機関受診時における障害特性に配慮した支援体制について ① 知的障害や発達障害等により、診察、検査又は治療が困難となる事例について、本市の把握状況を伺う。 ② 障害特性に配慮した対応が可能な医療機関の情報を把握し、相談支援事業所等と共有する仕組みについて伺う。 ③ 医療、障害福祉及び相談支援事業所等が連携し、緊急時に適切な医療につなげられる体制を構築してはどうか伺う。 (2) 入院中の重度訪問介護等の利用について ① 本市における、重度訪問介護利用者が入院中に同サービスを利用した実績について伺う。 ② 入院中も重度訪問介護を利用できることについて、本人、家族、相談支援専門員及び事業者等への周知状況を伺う。 (3) 家族の付き添い負担への対応について ① 重度訪問介護等の制度対象とならない障害者が入院し、家族が長時間の付き添いを余儀なくされる場合の支援策について伺う。	市 長

(同)	(同)	大 村 晃 一	② 障害者の入院に伴う家族の付き添いの負担について、実態をどの程度把握しているのか伺う。 (4) 障害特性に伴う入院時の経済的負担への対応について ① 障害特性により、個室利用や付き添い等の追加的な費用が生じている実態の調査等を行っているのか伺う。 ② 相談が寄せられた際に、利用可能な制度や相談窓口を案内する体制について伺う。 ③ 障害者の入院時に利用できる制度等を取りまとめ、本人及び家族に情報提供してはどうか伺う。 (5) 心身障害者医療費助成の現物給付について ① 現行制度と利用者負担について ア 本市の心身障害者医療費助成制度の受給者数、年間助成件数及び年間助成額について伺う。 イ 現行の償還払い方式について、利用者から寄せられている要望及び相談の状況を伺う。 ② 全国には実際に現物給付を実施している自治体もあり、「制度上できない」ということはないを考えるが、本市において現物給付方式を導入する場合の課題について伺う。 2. 医療的ケア児者・重症心身障害児者等とその家族へのレスパイト支援について (1) 市が把握している人数と、その家族から寄せられているレスパイト支援に関する相談やニーズをどのように把握しているのか伺う。 (2) 訪問看護師等が自宅へ訪問し、家族に代わって一定時間、医療的ケアや見守りを行う「訪問型レスパイト支援」について、本市の見解を伺う。 (3) 他の自治体では、家族の休息や介護負担の軽減を目的としたレスパイト入院を地域医療と連携して開始しているところもあるが、本市の見解を伺う。 3. 成年後見制度改正と「親亡きあと」への対応について (1) 成年後見制度改正への対応について ① 成年後見制度の改正を本市としてどのように受け止め、今後対応していく考えなのか伺	市 長
-----	-----	---------	---	-----

(同)	(同)	大 村 晃 一	う。 ② 第2期岩沼市成年後見制度利用促進基本計画について、法改正の内容等を踏まえ、必要に応じて見直す必要があると思うが、考えを伺う。 ③ 制度改正の内容について、当事者、家族及び福祉関係者等を対象とした説明会や相談会を実施する考えはあるのか伺う。 (2) 「親亡きあと」を見据えた支援について 成年後見制度に限らず、福祉サービス、金銭管理、住まい及び相談支援等を含めた「親亡きあと」について、早期から相談できる機会を設けてはどうか伺う。	市 長
4	14	沼 田 健 一	1. 市長の政治姿勢について 1. 市民の幸福、幸せの最大化の具体策は何か伺う。 2. 物価高や実質賃金の低迷、社会保障への不安等、生活に直結する課題に対する施策は何かを伺う。 3. 市民会館駐車場の無料化について (1) 7月30日の事業者との打合せ内容について伺う。 (2) 実施時期の検討状況を伺う。 (3) 無料化後の放置車両対策をどのように考えているか伺う。 (4) 適正管理とは具体的にどのようなことなのか、考えを伺う。 4. 岩沼市民体育センター跡地の問題について (1) 結論はいつ出すのか伺う。 (2) 裁判の経過はどのようなになっているのか伺う。 (3) 市民の気持ちをどのように酌み取るのか伺う。 (4) 前回の定例会での答弁にあった「市民が歓迎する形」とはどのようなものか伺う。 (5) 8月9日の河北新報に「補償にかかるコストを算定した後、賛否を問う住民投票の実施も検討する」との記事が掲載された。どのような状況となった場合に実施するのか伺う。 5. すぐやる課の設置について (1) 設置時期を伺う。 (2) 現在の組織の中で対応できないのか伺う。 6. 各種計画の見直しについて (1) 前回の定例会において「現状に合っているか、合っていないかという視点で順次見直す」との答弁	市 長

(同)	(同)	沼 田 健 一	があったが、検討はいつごろから始めるのか伺う。 (2) DX化、生成AIの活用が職員の削減につながるのか伺う。 7. 商工業の活性化について (1) 前回の定例会において「商工会を主眼に置いて連携して施策の検討を実施してまいります。」との答弁があったが、具体的にどのように進めるのか伺う。 (2) 「各種施策を精査して、予算規模を見直すなどにより財源を確保してまいる」との答弁があったが、具体策はあるのか伺う。 8. 8年後の人口5万人構想について (1) 「シュリンクする方向で市のトップが減少することを前提に目標を立ててしまったのでは、このまちは発展しないのではないか」との答弁があったが、全国的な人口減少にあるのでシュリンクを検討すべきと思うが、考えを伺う。 (2) 5万人構想を始めるならば早々に具体策を打ち出すべきと思うが、考えを伺う。 (3) 「市外から通勤している方々への岩沼市への移住促進に向けて、宅地の開発の進捗と歩調を合わせながらアプローチを進めてまいりたい。」との答弁があったが、具体的な施策を伺う。 (4) 三方よし（働く人、企業、市）の構造をどのような施策によって構築していく考えなのか伺う。 9. 2月定例会で示された沿岸部公有地の利活用の進捗状況を伺う。 10. 2月定例会で示された物価高騰への対策の進捗状況と新体制での対策を伺う。	市 長
			<u>2. 宮城県が構想する「ローコストアリーナ」の本市への誘致について</u> 1. 大崎市など他自治体の誘致活動に対する市の認識を伺う。 2. 仙台空港を擁する本市の立地優位性に対する市の評価について伺う。 3. 誘致に向けた庁内検討体制の設置について伺う。 4. 県への働きかけを行う考えはあるのか伺う。	市 長
5	1	岡 田 みつえ	<u>1. 市民サービスの向上について</u> 市役所には電話や来庁などにより、様々な用件を抱えた市民が問い合わせを行っている。一方、市民が行	市 長

(同)	(同)	岡 田 みつえ	政組織や担当部署をあらかじめ把握しているとは限らず、必要な窓口へ円滑につながることは市民サービスの基本の一つと考える。 本市では8月26日に代表電話の新たな仕組みも導入されていることから、代表電話の運用状況を確認するとともに、来庁者への案内を含め市民にとって分かりやすい案内体制について伺う。 1. 代表電話における案内体制について (1) これまでの電話案内の運用状況と課題をどのように捉えているのか伺う。 (2) 新たなシステムの導入及び運用に係る経費を伺う。 (3) 新たなシステムに期待する効果と今後の検証の考え方を伺う。 2. 来庁者に対する案内体制について (1) 現在の来庁者への案内体制と課題を伺う。 (2) 市民が用件に応じて円滑に担当窓口へたどり着けるよう、案内機能を充実させる考えはあるのか伺う。 (3) 今後の庁舎内における案内体制の在り方について、市長の見解を伺う。	市 長
			2. 持続可能な行政運営に向けた人材確保について 行政サービスを持続的に提供していくためには、その担い手となる職員の確保と、蓄積された経験や知識を組織の中で生かしていくことが重要である。 人材確保は新規採用だけでなく、職員の育成や定着、離職への対応、再び行政で働くことのできる仕組みなど、長い目線が必要であると考えます。本市ではカムバック採用を開始する方針も示されていることから、今後の人材確保の考え方について伺う。 1. 職員の退職と人材定着について (1) 過去5年間の正規職員の普通退職者数と、その推移を伺う。 (2) 普通退職者の状況について、市はどのように分析しているのか伺う。 (3) 職員の定着に向けた現在の取組と課題を伺う。 2. カムバック採用について (1) 本制度の導入により、本市が抱える人材確保上のどのような課題の解決を図ろうとしているのか伺う。 (2) 対象を「令和2年4月1日以降に退職」「採用	市 長

(同)	(同)	岡 田 みつえ	予定日現在で50歳未満」「実務経験5年以上」とした考え方を伺う。 (3) 本制度を一時的な欠員補充にとどめず、今後の人材確保策の一つとして位置付け、効果を検証していく考えはあるか伺う。 3. 持続可能な人材確保について (1) 職員が継続して働くことのできる職場環境づくりを、今後どのように進めるのか考えを伺う。 (2) 採用、育成、定着及び再採用を含めた人材確保について、市の基本的な考えを伺う。	市 長
6	5	植 田 美枝子	<u>1. m i i n aについて</u> 1. 市政報告で、8月23日時点での全体の利用者数は140,457人となっているとあった。またLINEの友だち登録は3万人を突破したとあるが、オープン前の想定と比較しての感想を伺う。 2. 市内、市外それぞれの利用者数と割合を伺う。 3. 指定管理契約について、今年度の指定管理料は4,312万円となっているが、今後5年間一律で同額を支払い続ける契約内容なのか、それとも年度ごとに見直せるのか伺う。 4. 市内外のお業種との相乗効果をどのように捉えているのか伺う。 5. 周辺地域との回遊性を持たせた仕組みを考えてはどうか伺う。 6. 独自性を持ったイベントを企画して多世代の交流を目指してはどうか、見解を伺う。	市 長
			<u>2. ふるさと納税について</u> 1. 本年度のふるさと納税の推移を伺う。 2. 企業版ふるさと納税を増やすための施策をどのように考えているのか伺う。 3. 企業版ふるさと納税のメリットをトップセールスによって伝え続けていくべきと考えるが、見解を伺う。 4. 代理寄附について (1) 現時点での八代市への代理寄附額を伺う。 (2) 代理寄附は行政のボランティア活動の一形態である。本市が代理寄附を積極的に行う意義について、市長の見解を伺う。 (3) 本市が大規模災害に見舞われたときのために、代理寄附の事前協定を特定の自治体と結んではどうか、考えを伺う。	市 長

(同)	(同)	植 田 美枝子	5. 企業版ふるさと納税人材派遣型について (1) 人材派遣型の企業版ふるさと納税を通じて専門知識を持つ企業の人材を本市の課題解決のために派遣してもらう事は、企業側、自治体側両方にメリットがある仕組みだと考えるが、実施を検討してはどうか伺う。 (2) 副業型の人材派遣も取り入れるべきと思うが、考えを伺う。	市 長
7	12	櫻 井 隆	<u>1. グリーンピア岩沼の今後の在り方について</u> 1. ホテル棟の契約と今後の方針について (1) 現在、ホテル棟は有限会社ホテルテトラに貸し付けていると認識している。土地の使用賃貸借契約は令和9年7月31日まで、建物の契約は令和14年7月31日までとなっているが、土地と建物で契約期間が異なっている理由を伺う。 (2) 市として、令和9年7月31日以降も土地の使用賃貸借契約を更新する考えなのか伺う。 2. 無償貸付について (1) ホテル関連資産については、無償で貸し付けられていると認識している。市がホテルテトラに無償で貸し付けることによって市民が得られるメリットをどのように考えているか伺う。 (2) 市有財産を無償で提供している以上、一定期間ごとに費用対効果を検証する仕組みが必要と考えるが、考えを伺う。 3. 修繕費と今後の負担区分について (1) ホテルテトラへの貸付以前には、市が一定の修繕を行ったと認識している。これまでにを行ったホテル棟の主な修繕内容を伺う。 (2) 今後、ホテル棟について大規模な修繕や設備更新が必要となった場合、市とホテルのどちらが負担するのか、現在の契約上の負担区分を明確に伺う。 4. 令和9年及び令和14年を見据えた市の考え方について 令和9年には土地の使用賃貸借契約、令和14年には建物の使用賃貸借契約の期限を迎える。市として、これらの契約を見据え、グリーンピア岩沼全体を今後どのようにしていくのか長期的な方針を伺う。 5. スポーツ施設の老朽化と修繕計画について	市 長

(同)	(同)	櫻井 隆	(1) 体育館、テニスコート、フットサルコート、プールなど、グリーンピア岩沼には多くの市民利用施設がある。それぞれの施設について、現在の老朽化状況を市はどのように把握しているか伺う。 (2) 今後5年から10年程度の間で大規模修繕や設備更新が必要になると見込まれる施設はあるのか伺う。 6. 利用料金の見直しについて (1) 令和3年9月定例会での一般質問で、市民の貴重な財産であるグリーンピア岩沼について、市民利用を優先する観点から、市民利用者と市外利用者で料金に差を設けるべきではないかと提案した。しかし、現在も基本的には同一料金となっている。本市では市民利用者と市外利用者で料金に差を設けている施設もある。グリーンピア岩沼についても、市民利用者の負担に配慮しながら、市外利用者には一定の上乗せをする料金体系を検討してはどうか伺う。 (2) 「市民利用者は現行料金をできるだけ維持し、市外利用者については一定の料金を設定する」など、市民利用者と市外利用者を区別し、増収分を施設の修繕や維持管理に充てる仕組みを検討してはどうか伺う。 7. 温水プールの今後について (1) 温水プールは、市民の健康増進や子どもたちの水泳学習などにも活用できる重要な施設である。温水プールは一般的な施設に比べ、維持管理費や設備更新費も大きくなると考えられるが、今後10年先を見据えた温水プールの修繕及び設備更新の計画について、市の考えを伺う。 (2) 今後、多額の修繕費が必要となった場合、現在の施設をそのまま維持するのか、施設の集約や運営方法の変更も含めて検討する考えはあるか伺う。 8. グリーンピア岩沼の今後の在り方について グリーンピア岩沼は、市民の健康増進、スポーツ、自然との触れ合い、そしてホテルによる交流人口の拡大など、複数の役割を持つ貴重な市有施設ではあるが、施設の老朽化、今後の修繕費、ホテルの契約期限、クマ対策など、今後解決していかなければならない課題も多くある。単に現在の施設を維持する	市長
-----	-----	------	--	----

(同)	(同)	櫻井 隆	という考え方ではなく、これからの岩沼市にとってグリーンピア岩沼をどういう施設として残し、どう活用していくのかという、将来を見据えた明確なビジョンが必要だと考える。グリーンピア岩沼を今後も岩沼市にとって必要な施設として、守り、さらに魅力を高めていく考えなのか市長の考えを伺う。	市 長
			<u>2. 学校教育における着衣水泳の取組について</u> 1. 本市の小中学校において、現在、着衣水泳はどの程度実施されているのか伺う。 2. 本市にはグリーンピア岩沼の温水プールがある。天候や季節に左右されず、一定の環境で着衣水泳を実施できる施設として活用できると考える。学校単独での実施が難しい場合には、グリーンピア岩沼の温水プールを活用して、複数校あるいは学年単位での着衣水泳の実施を検討してはどうか伺う。	教育長
8	9	布田 恵美	<u>1. 人口減少社会における、若い女性の視点を生かしたまちづくりについて</u> これまで、男女共同参画社会の推進やジェンダー平等社会の実現について、一般質問で継続して取り上げてきた。社会の意識や制度は少しずつ変化しているものの、家庭、職場、地域社会などには固定的な性別役割分担意識がなお残り、生きにくさを感じている女性も少なくない。 人口減少が進む中、女性に活躍を求めるだけでなく、女性が生きにくさを感じる社会の仕組みや環境を見直し、誰もが自分らしく暮らせる地域をつくることが重要である。 また、定住促進を進める上では、住宅や生活基盤などのハード面の整備に加え、地域への愛着を育み、「このまちで暮らし続けたい」と思える環境を整えることも重要である。特に、これから地域を担う若い女性の声をまちづくりに生かすことは、人口減少対策や持続可能な地域社会の実現につながるものと考えている。そこで、以下の点について伺う。 1. 若い女性の視点を生かした定住促進について (1) 若い女性の転入・転出の状況をどのように把握し、定住促進策に生かしているのか伺う。 (2) 住宅や生活基盤などの整備に加え、若い女性が地域に愛着を持ち、「このまちで暮らし続けたい」と思える環境づくりをどのように進めるのか伺う。	市 長

(同)	(同)	布 田 恵 美	(3) 若い女性をまちづくりの当事者として捉え、その声を政策形成に反映する仕組みについて、市の考えを伺う。 2. 女性の意思決定への参画について (1) 岩沼市議会では、現在16人中6人が女性議員となっている。この状況を市はどのように捉えているのか伺う。 (2) 審議会等における女性の登用状況と、今後の取組について伺う。 (3) 女性を委員として登用するだけでなく、意思決定を担う立場への女性参画をどのように進めるのか、考えを伺う。 3. 固定的な性別役割分担意識と無償労働について (1) 家事、育児、介護等の無償労働が女性に偏っている現状を、市はどのように捉えているのか伺う。 (2) 女性の社会参画を進めるためには、女性への支援だけでなく、男性の家庭参加を進めることも重要と考えるが、市の認識を伺う。 (3) 固定的な性別役割分担意識の解消に向け、今後どのような取組を進めるのか伺う。 4. 男女が共に働き、家庭を担える環境づくりについて (1) 市職員における女性管理職の登用状況と、今後の取組について伺う。 (2) 男性職員の育児休業取得促進を含め、男女が共に仕事と家庭を担える職場環境づくりについて伺う。 5. 女性が活動しやすい地域社会づくりについて (1) 地域活動や防災活動等における女性の参画状況と課題について伺う。 (2) 子育てや介護等を担う世代を含め、女性が地域活動に参加しやすい環境づくりについて、市の考えを伺う。 6. 「住み続けたいまち岩沼」を目指して 人口減少対策や定住促進を進める上で、住宅や生活基盤などのハード面に加え、地域への愛着や働き方、家庭生活、地域活動、意思決定への参画など、暮らしの質に関わる視点も重要と考える。 若い女性をはじめ、市民が「このまちで暮らし続けたい」と思える岩沼市を目指し、これまでの男女	市 長
-----	-----	---------	---	-----

(同)	(同)	布 田 恵 美	共同参画の取組をさらに発展させ、暮らしやすさや地域への愛着につながる総合的な定住促進策を進めることについて、市長の見解を伺う。	市 長
9	10	渡 辺 ふさ子	1. 平和事業について 1. 日本が被爆してから今年で81年が経過しているが、世界では今なお紛争が広がっている。岩沼市は平成元年第5回岩沼市議会定例会で非核平和岩沼市宣言を決議しているが、現在においても輝く、重要な宣言であると考え。非核平和岩沼市宣言に対しての市長の見解を伺う。 2. 原水爆禁止国民平和大行進は1958年に始まった全国規模の平和行進で、5月初旬から北海道の礼文島など各地を出発し、8月の広島、長崎での原水爆禁止世界大会に向けて、全国各地で核兵器廃絶と平和を訴えてリレー形式で歩く取組になっている。岩沼市においても毎年行われており、市民、労働組合、医療、生協関係者、被爆者団体など、多様な方々が参加している。各自治体によっては、様々な支援策が行われている。 (1) 原水爆禁止国民平和大行進が岩沼市内を行進する際の終着点は市役所駐車場になっている。市長からのメッセージはいただいているそうだが、都合の良いときには市長自ら、激励の挨拶をしてはどうか伺う。 (2) 国民平和大行進への賛助金を検討してはいかがか伺う。 (3) 国民平和大行進の岩沼行進を含めた一定の期間に、庁舎に平和を発信する垂れ幕をかけてはどうか伺う。 3. 市役所庁舎北側の芝生広場に岩沼市非核平和宣言都市の三角柱が建てられている。緑のパネルに白文字でかわいらしいが、高さは約1.8メートルであまり目立たない。道路沿いの桃太郎旗よりも低く、約4メートルの「認知症と共に生きる」看板の半分以下の高さや幅である。もっと大きく、目につくように道路際に建て替えてはいかがか伺う。 4. 昨年3月に三角柱の隣にあった大きな自衛隊員募集の看板が暴風により危険な状態になり撤去されている。あまりの大きさの違いに、これが岩沼市の非核平和宣言都市への位置づけなのかと憂慮していた。今後、また自衛官募集の看板を設置する予定	市 長 教育長

(同)	(同)	渡 辺 ふさ子	があるのか伺う。 5. 被爆の実相を学ぶための平和教育の一環として、広島や長崎への中学生平和学習派遣や平和祈念式典への派遣を行ってはいかがか伺う。 6. 岩沼市は日本非核宣言自治体協議会や平和首長会議へ加盟しているのか伺う。	市 長 教育長
			2. 市営住宅について 1. 市営住宅について、本市のホームページには「市営住宅は、住宅に困っている所得の比較的低い方々が安い家賃で入居できるよう国と市が資金を出し合って建設した公の財産です。したがって、一般民間の住宅とは違い入居者は「公営住宅法」や「市営住宅条例」等の諸法令の定めるところにより市営住宅に入居することができます。」(一部抜粋)と記載されている。 しかし、最近市営住宅に入居した高齢の方の話を伺うと「基本的に入居した時には室内には何も無い。抽選で当たったのは良かったかもしれませんが、あまりに費用がかかり、手持金がないと大変です。お金がなければ入居できません。主にかかった費用は風呂釜や浴槽、エアコン2台の購入費並びに設置費、網戸3枚、敷金など、合計62万1千円であった。他にも引越費用として10万円かかり、せめて網戸や風呂釜、浴槽は設置して欲しい」と要望された。 (1) 所得の比較的低い方々や高齢者、障害のある方にとって、負担が大きいのではないか、見解を伺う。 (2) 市営住宅によっては風呂釜や浴槽がついているところもあるのか伺う。 (3) 退去する時には入居者の責任ですべて撤去しなければならない。まるでヤドカリ状態ではないか。ハウスクリーニングなどにより、風呂釜などの持込みも撤去もしなくてもよい施策ができないか伺う。	市 長
			3. 災害時の避難所や在宅避難対策について 1. 能登半島地震や熊本地震など、これまでの記録を上回る災害が近年世界的に頻発している。テレビの映像を見るたび心が痛み、東日本大震災での惨状を思い出す。そこで災害対策について伺う。 (1) 避難所の運営について、以前の質問でエアコン	市 長

(同)	(同)	渡 辺 ふさ子	が設置されている教室を利用するとの答弁があったが、避難が長期化した場合は支障が出るのではないか。避難所になる学校体育館にエアコンを設置してはどうか伺う。 (2) 段ボールベッドは各避難所に1台ずつ設置されていると聞いているが、大災害時に対応できるのか伺う。 (3) 食料や飲料の備蓄は何人分、何日分しているのか伺う。 (4) 災害関連死が増えている。良好な食事の提供が命綱になると考えるが、避難所や在宅避難者にどのような対策を取るのか伺う。	市 長
10	13	飯 塚 悦 男	<u>1. 総合南東北病院と市民会館駐車場について</u> 1. 市民会館一帯は東部公共ゾーンとして開発され、当時の渡邊市長、岩沼市議会、地域住民が熱望し、昭和60年12月1日に総合南東北病院が開設された。総合南東北病院は岩沼市にとってどのような恩恵、メリットをもたらしたと考えるか伺う。 2. 経済的な効果はどのくらいあるのか伺う。 3. 佐藤前市長を除く歴代市長は、総合南東北病院は民間病院ではあるが、公共、公益性のある病院として捉え、市民会館駐車場の使用を容認してきた。鬼澤市長はどのような考えを持っているか伺う。 4. 総合南東北病院から払い下げの要請を受けている市民会館北側駐車場について、現在の進捗状況を伺う。	市 長
			<u>2. 新駅の設置について</u> 1. 新駅の設置は佐藤前市長の選挙公約であるが、行政の継続性を考慮し、取り組んでいくべきとの考えか伺う。 2. 新駅の設置について、佐藤前市長在任中に組織内でどのような検討が行われていたのか伺う。	市 長
11	6	佐 藤 剛 太	<u>1. 地方創生総合戦略の検証と人口目標、市長公約及び施策・財源について</u> 1. 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証結果について 第2期総合戦略について、市は各施策及びK P I（成果を測る数値目標）の達成状況とその要因をどのように評価し、目標を達成できなかった施策及び人口減少対策上の課題をどのように認識しているか伺う。 2. 検証結果の第3期総合戦略への反映について	市 長

(同)	(同)	佐藤 剛太	(1) 第2期総合戦略は令和2年3月に策定され、第3期総合戦略は令和7年3月に策定されている。一方、第2期総合戦略の検証結果は、その後の令和7年10月に報告されているが、第3期総合戦略の策定時点では、第2期の成果と課題をどのように把握し、施策、人口目標及びKPIを設定したのか伺う。 (2) 第2期の検証で明らかになった成果と課題を、第3期総合戦略の施策、人口目標及びKPIに今後どのように反映するのか。また、継続、見直し又は追加する施策をどのような基準で判断するのか伺う。 3. 第3期総合戦略の今後の検証について 第3期総合戦略について、誰が、いつ、どのような方法で進捗及び効果を検証し、その結果を市民及び議会に示すのか。また、KPIが目標どおり進まない場合、施策の見直しや追加対策を行う判断基準をどのように定めるのか伺う。 4. 人口4万5千人の計画と市長公約「8年後に人口5万人」との関係について (1) 市長は、6月の市長選挙において「8年後に人口5万人」を市民に公約として示した。市長就任後、この公約を市政運営上どのように位置付け、どの施策によって実現を目指すのか伺う。 (2) 「5万人」を市の計画上の人口目標として位置付けない場合でも、市民に示した公約として、進捗及び達成度を継続的に検証し、市民及び議会に説明する責任があると考え、市長の見解を伺う。 (3) 市の計画で示す人口4万5千人及び第3期総合戦略の人口目標・KPIとの整合性をどのように図るのか伺う。 (4) 5万人の実現に向け、年度ごとの人口、転入者数、転出者数、出生数等の中間目標を含む工程を示す考えはあるか。また、8年後、市民が公約の達成又は未達成を判断できるよう、判断時期、人口数値及び指標をあらかじめ明確にする考えはあるか伺う。 5. 移住・定住施策について (1) 人口目標及び8年後に人口を5万人とする公約の実現に向け、特に子育て世代の転入促進と転	市長
-----	-----	-------	--	----

(同)	(同)	佐藤 剛太	出抑制をどのように進めるのか伺う。 (2) 転入する子育て世帯等に対する移住支援金、住宅取得支援、家賃並びに引越費用への支援及び空き家活用について、制度の新設又は拡充を検討する考えはあるか伺う。 (3) 支援件数、転入者数、定住率等、成果を具体的に判断できるK P I をどのように設定するのか伺う。 6. 移住・定住施策等の財源について 移住・定住施策及び人口増加策に必要な事業費をどの程度見込み、国・県の交付金等、既存事業の見直し、一般財源及び財政調整基金からどのような優先順位で持続可能な財源を確保するのか伺う。 7. 財政調整基金に対する市長の考えについて 市長は、岩沼市の財政規模及び将来の行政需要を踏まえ、財政調整基金の適正な残高をどの程度と考えているか。また、公約実現のために活用する場合、どのような条件及び限度を設け、将来世代への負担と財政の健全性を確保するのか伺う。	市長
			<u>2. 市民会館駐車場の安全確保と持続可能な施設管理について</u> 1. 夜間救急利用者を含めた駐車場の安全確保について 市民会館駐車場の照明の点灯時間は通常午後9時30分までであるが、同駐車場は総合南東北病院の夜間救急を受診する患者や付き添いの方にも利用されており、消灯後も利用者がいる。夜間救急利用者を含む、消灯後の利用者の安全をどのように確保するのか伺う。 2. 安全確保に必要な夜間照明について 照明の点灯時間を延長すれば電気料金が生じることは理解するが、転倒や接触事故等を防止し、夜間利用者の安全を確保するため、必要な照明は確保すべきと考える。午後9時30分以降も必要な範囲で点灯することについて、市の認識を伺う。 3. 有料・無料にかかわらず安全確保と利用環境について 駐車場の安全確保は、有料・無料にかかわらず必要である。加えて、現在、利用者に駐車料金を負担していただいている以上、照明や防犯対策を含め、	市長 教育長

(同)	(同)	佐藤 剛太	安全・安心・快適に利用できる環境を整える必要があると考えるが、市の認識を伺う。 4. 無料化の政策効果、根拠及び効果検証について (1) 市の調査では、駐車料金を負担している市民は約1割であり、市民会館は大規模修繕工事があったため利用者数の増減を単純に比較できない一方、総合体育館の利用者数は有料化後も増加している。市長は、無料化によって誰のどのような課題を解決し、市民全体にどのような効果をもたらそうとしているのか、また、その効果をどのような根拠に基づいて見込んでいるのか伺う。 (2) 無料化後はどのような指標を用いて効果を検証するのか伺う。 5. 受益者負担と無料化の整合性について 一定の負担があっても、安全・安心・快適な利用環境を望む市民の声もある。少額でも利用者に応分の負担をいただき、その収入を安全対策や維持管理に生かす受益者負担も重要と考えるが、市長は、受益者負担の考え方と無料化との整合性をどのように図るのか伺う。 6. 駐車場の「適正管理」の考え方について 市民会館駐車場を有料化した目的の一つである「適正管理」とは、具体的にどのような状態を指し、その実現のためにどのような取組を行うことを意味するのか、考えを伺う。 7. 安全・維持管理と「適正管理」の関係について 夜間照明、防犯、清掃、設備点検、植栽管理、路面や区画線の修繕など、利用者の安全を確保し、良好な利用環境を維持する取組も「適正管理」に含まれると考えるが、市長の見解を伺う。 8. 無料化後の安全対策と管理水準について 駐車場を無料化しても、照明、防犯、清掃、点検、修繕等に要する経費はなくなる。無料化後も、安全対策及び適正管理の水準を低下させることなく維持する考えか伺う。 9. 駐車場収入に代わる財源と持続可能な施設管理について 無料化によって駐車場収入がなくなった場合、安全確保及び適正管理に必要な財源をどのように確	市長 教育長
-----	-----	-------	---	-----------

(同)	(同)	佐藤 剛太	保するのか。また、他の行政サービスや公共施設の維持管理に影響を及ぼすことなく、持続可能な施設管理をどのように実現するのか、市長の考えを伺う。	市長 教育長
12	2	西塚 秀市	1. 予防接種について 1. 子どもの予防接種について (1) 令和8年度の定期予防接種の種類と内容について伺う。 (2) 接種費用の助成額について伺う。 (3) 予防接種による健康被害等の報告事例について伺う。 2. 大人の予防接種について (1) 予防接種の種類と内容について伺う。 (2) 予防接種費用の助成額について ① 令和8年4月1日から高齢者肺炎球菌ワクチン定期予防接種の自己負担額が5,000円から6,000円に増額となった理由を伺う。 ② 風しんワクチン予防接種費用の助成額を伺う。 ③ 高齢者インフルエンザ予防接種の自己負担額を伺う。 ④ 带状疱疹予防接種について ア 令和7年度の予算額と接種した人数を伺う。 イ 令和8年度の予算額と接種予定人数を伺う。 ウ 現在、当市の带状疱疹予防接種費用の助成は原則65歳からであるが、加古川市では51歳、56歳、61歳になる方にも助成をしている。当市でも同様の対応をしてはどうか、考えを伺う。 エ 助成対象枠を増やすことにより健康増進及び国民健康保険給付費の削減並びに個人医療費の削減につながることを期待できると思うが、市長の考えを伺う。 3. 定期予防接種を県外の医療機関など指定医療機関以外で接種することを希望する方への接種費用の助成について (1) 助成内容及び対象者について伺う。 (2) 必要となる書類について伺う。 (3) 助成にかかる申請期限はあるのか伺う。	市長

13	7	佐藤直美	1. 防犯カメラの増設による安全・安心なまちづくりについて 1. 市が設置する防犯カメラの現状と効果について (1) 防犯カメラの設置状況及び設置場所の選定理由を伺う。 (2) 10台という設置台数の考え方を伺う。 (3) 設置後の活用実績及び10か所に設置したことに対する効果検証を行っているのか伺う。 2. 防犯上必要な箇所の把握と適正配置について (1) 設置後、警察と新たに設置箇所についての協議を行っているのか伺う。 (2) 新たな設置候補箇所はあるのか伺う。 (3) 客観的根拠に基づく設置箇所を決める選定基準を伺う。 3. 防犯カメラの計画的な増設について (1) 本年度、増設を行わない理由を伺う。 (2) 次年度以降の増設について伺う。 (3) 中長期的な整備方針を伺う。	市長
			2. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理について 1. 住宅用火災警報器の設置状況と課題について伺う。 2. 住宅火災を踏まえた未設置世帯、とりわけ高齢者世帯への対応について伺う。 3. 設置促進から維持管理へ、啓発の重点を広げる必要性について伺う。 4. 今後の設置状況の把握とデータの政策への活用について伺う。 5. 住宅用火災警報器の啓発を次の段階へ進めることについて伺う。	市長
14	15	高橋光孝	1. 市長公約の進捗について 1. 市民会館駐車場の無料化の進捗について (1) 市長のトップの政策公約であるが、前回の定例会で「他団体にだけ有料との契約が結べるのか、市長自身がトップセールスするという形で進めたい。」と答弁していたが、トップセールスは行ったのか、行ったとすれば、その中でどのような意見が出されたのか伺う。 (2) 市民会議よりも、市長のトップの政策公約であるから、トップセールスなどを行ない、進めていくべきと思うが、市長はどう考えているのか伺う。	市長

(同)	(同)	高 橋 光 孝	2. 岩沼市民体育センター跡地の活用について (1) 「これまでの決定のプロセスに関してしっかり理解をする、把握をするということを行っております。今はその情報を整理していただいている段階」と答弁されたが、あたかもプロセスに問題があったかのように感じる発言だが、現在、決定のプロセスに関してどのように理解し、把握しているのか伺う。 (2) 「そこで得られた情報を基に、法的解釈を解決して、その後分岐していく。」と答弁していたが、裁判も行われている中でどのように解決していくのか伺う。 (3) 「白紙撤回できるものであれば、その方法を考えたい。」「もし完成してしまったのであれば、それをどのように有効活用していくかを検討していかなければならないだろう。」と答弁されている。スターボックスのオープンが今月14日に迫った今、有効活用するという方向で進めることで間違いはないのか伺う。	市 長
			2. 災害対策について 日本だけでなく、世界各地で温暖化によると思われる災害が多発している。岩沼市の災害対策の現状について伺う。 1. 水道管の耐震管について (1) 岩沼市の上水道管の総延長は何キロメートル位で、そのうち耐震管は何割入っているのか伺う。 (2) いわぬま市民交流プラザ、玉浦コミュニティセンター、岩沼西コミュニティセンター、小中学校など、避難所として考えられる施設等に耐震管はどの程度入っているのか伺う。 (3) 玉崎浄水場は耐震管になっているのか伺う。 (4) 避難所をつくるのも大事だと思うが、避難しなくてもいいまちづくり、一時避難しても早く自宅に戻れる災害に強いまちづくりも大切だと思うが、見解を伺う。 2. 森林の安全管理について (1) 大雨時、倒木などが橋などに引っかかり川がせき止められ、氾濫することもあるが、市は西部地区の川や沢沿いの倒木及び倒れそうな木の状況などをどの程度把握しているのか伺う。	市 長

(同)	(同)	高 橋 光 孝	(2) 災害を未然に防ぎ、また、被害を最小限にするために、倒れそうな木を点検し、事前に伐採するなどの対策は行わないのか伺う。 (3) 森林環境贈与税はこのような対策には使えないのか伺う。 3. 建築物の耐震化について (1) 市内の建築物の耐震化率はどの程度か伺う。 (2) 今後耐震化率を上げるためにどのような方法をとるのか伺う。	市 長
-----	-----	---------	---	-----